

Ⅶ 保健活動記録様式

VII 保健活動記録様式

1 様式とその内容

様式 1 「健康相談票（共通様式）」

場所(避難所・仮設住宅・自宅)や方法(訪問・面接・電話)に関わらず、健康相談の際に用いる。世帯の把握にも用いることができる。

様式 2 「避難所情報 日報（共通様式）」

公衆衛生的立場から避難所における住民の生活を把握し、予測される問題と当面の解決方法、今後の課題と対策を検討する。

様式 3 「避難所避難者の状況 日報（共通様式）」

その日の避難所の状況と対応について記載する。個人や家族が被災による健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動が取れるよう援助する。

様式 4 「派遣元自治体 活動報告書（共通様式）」

被災地での保健活動を派遣元自治体から厚生労働省へ報告するために使用する。

様式 5 「健康相談票 経過用紙」

様式 1 の経過用紙として使用する。

様式 6 「仮設住宅入居世帯調査票」

仮設住宅入居者の生活状況等を把握し、相談、要望事項を含めた今後の対応を判断するため、調査で使用する。個別に継続的な対応が必要な場合は様式 1 を作成する。

様式 7 「応急仮設住宅入居者健康調査票」（初回）（継続）

仮設入居者の個人や家族について健康レベル、生活行動等について継続調査する場合に用いる。

様式 8 「仮設住宅保健師活動報告」

仮設入居者の個人や家族の状況把握と現状を評価し、次の保健活動につなげる。

様式 9 「巡回健康相談実施集計表」

避難所や仮設住宅、地域において健康課題がある住民に実施した相談の概況を報告する。被災地での活動の成果をまとめるために活用する。

様式 10 「保健活動日誌（個人記録）」

保健師の個別活動記録。被災地での保健活動評価や時間外勤務状況の資料とする。

様式 11 「避難所・在宅健康調査連名簿」

避難所や在宅住民に対して、全体の健康調査を行う際に使用する。継続支援が必要な対象者には健康相談票（様式 1）を作成する。乳幼児や高齢者、介護認定者、慢性疾患患者など特定の対象者を把握する場合にも使用できる。

様式 12 「応援・派遣時保健活動引き継ぎ書」

応援・派遣による被災地での保健活動内容について、班体制で引き継いでいくために使用する。応援・派遣に入った派遣先及び派遣元の自治体に提出する。

* 様式 1 から 9 は全国保健師長会の記録様式と共通

2 各様式の提出について

各記録様式の提出期日と提出先については、下記を参考にしてできる限り遅滞ないように提出する。

表 1 提出期限・提出先別記録様式

記録様式	提出期限	提出先
様式 1 健康相談票 (共通様式)	チーム毎の派遣 期間終了時	次の派遣チーム
様式 2 避難所情報 日報 (共通様式)	毎日	派遣先自治体
様式 3 避難所避難者の状況 日報 (共通様式)		
様式 4 派遣元自治体 活動報告書 (共通様式)	厚生労働省の求め があった時	県医療福祉計画課 から厚生労働省
様式 5 健康相談票 経過用紙	チーム毎の派遣 期間終了時	次の派遣チーム
様式 6 仮設住宅入居世帯調査票		
様式 7 応急仮設住宅入居者健康調査票 (初回) (継続)		
様式 8 仮設住宅保健師活動報告		
様式 9 巡回健康相談実施集計表		
様式 10 保健活動日誌 (個人記録)	派遣期間終了後	各所属 (県・市町村)
様式 11 避難所・在宅健康調査連名簿	チーム毎の派遣 期間終了時	次の派遣チーム
様式 12 応援・派遣時保健活動引き継ぎ書		次のチーム及び 県医療福祉計画課

健康相談票(共通様式)		方法	対象者	担当者(自治体名)					
初回・()回		・面接 ・電話 ・その他 ()	乳児 幼児	相談日 年 月 日 時間 場所					
保管先			妊婦 産婦 高齢者						
			障害者 その他()						
基本的な状況	氏名(フリガナ)		性別	生年月日				年齢	
			男・女	M・T・S・H 年 月 日				歳	
	被災前住所		連絡先			避難場所			
	①現住所		連絡先			自宅 自宅外:車・テント・避難所 (避難所名:)			
	②新住所		連絡先			家族状況			
	情報源、把握の契機/相談者がいる場合、本人との関係・連絡先					独居・高齢者独居・高齢者のみ世帯 家族問題あり()			
	被災の状況					制度の利用状況 ・介護保険(介護度) ・身体障害者手帳(級) ・療育手帳(級) ・精神保健福祉手帳(級) ・その他()			
家に帰れない理由									
		自宅倒壊・ライフライン不通・避難勧告・精神的要因(恐怖など) その他()							
身体的・精神的な状況	既往歴		現在治療中の病気		内服薬				
	高血圧、脳血管疾患、 高脂血症、糖尿病、 心疾患、肝疾患、 腎疾患、精神疾患、 結核、難病、 アレルギー、 その他 ()		高血圧、高脂血症、 糖尿病、心疾患、 肝疾患、腎疾患、 精神疾患、結核、 難病、アレルギー、 その他 ()		なし・あり(中断・継続)		内服薬名()		
					医療器材・器具		医療機関名		
					在宅酸素・人工透析 その他()		被災前: 被災後:		
				食事制限		血圧測定値			
				なし		最高血圧:			
				あり 内容()		最低血圧:			
				水分()					
現在の状態(自覚症状ごとに発症時期・持続・転帰を記載)				①頭痛・頭重②不眠③倦怠感④吐き気⑤めまい⑥動悸・息切れ⑦肩こり⑧目の症状⑨咽頭の症状⑩発熱⑪便秘/下痢⑫食欲⑬体重減少⑭精神運動減退/空虚感/不満足/決断力低下/焦燥感/ゆううつ/精神運動興奮/希望喪失/悲哀感⑮その他					
日常生活の状況	食事		保清	衣類の着脱	排泄	移動	意思疎通	判断力・記憶	その他
	自立								
	一部介助								
	全介助								
備考 必要器具など									
個別相談活動	相談内容				支援内容				
					今後の支援方針 解決 継続				

避難所情報 日報
(共通様式)

活動日	記載者(所属・職名)
年 月 日	

避難所活動の目的:

- ・公衆衛生的立場から避難所での住民の生活を把握し、予測される問題と当面の解決方法、今後の課題と対策を検討する。
- ・個人や家族が被災による健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動が取れるよう援助する。

避難所の概況	避難所名	所在地(都道府県、市町村名)	避難者数 昼: 人 夜: 人		
	電話	FAX	施設の広さ		
	スペース密度	過密・適度・余裕	施設の概要図(屋内・外の施設、連絡系統などを含む)		
	交通機関(避難所と外との交通手段)				
組織や活動	管理統括・代表者の情報				
	氏名(立場)				
	その他				
	連絡体制 / 指揮・命令系統				
	自主組織	有()・無			
	外部支援	有(チーム数: 、人数: 人)・無 有の場合、職種()			
ボランティア	有(チーム数: 、人数: 人)・無 有の場合、職種()		避難者への情報伝達手段(黒板・掲示板・マイク・チラシ配布など)		
医療の提供状況					
救護所	有・無 巡回診療 有・無				
地域の医師との連携	有・無				
現在の状況			対応		
環境的側面	ライフライン	電気	不通・開通・予定()		
		ガス	不通・開通・予定()		
		水道	不通・開通・予定()		
		飲料水	不通・開通・予定()		
		固定電話	不通・開通・予定()		
		携帯電話	不通・開通・予定()		
	設備状況と衛生面	洗濯機	無・有(使用可・使用不可)		
		冷蔵庫	無・有(使用可・使用不可)		
		冷暖房	無・有(使用可・使用不可)		
		照明	無・有(使用可・使用不可)		
		調理設備	無・有(使用可・使用不可)		
		トイレ	使用不可・使用可(箇所)		
			清掃・くみ取り	不良・普・良	
			手洗い場	無・有 手指消毒 無・有	
	風呂	無・有(清掃状況:)			
		喫煙所	無・有(分煙: 無・有)		
	生活環境の衛生面	清掃状況	不良・普・良	床の清掃	無・有
		ゴミ収集場所	無・有	履き替え	無・有
		換気・温度・湿度等 空調管理		不適・適	
		粉塵	無・有	生活騒音	不適・適
寝具乾燥対策		無・有			
ペット対策		無・有	ペットの収容場所 無・有		
食事の供給	1日の食事回数	1回・2回・3回			
	炊き出し	無・有	残品処理	不適・適	

避難所避難者の状況 日報
(共通様式)

活動日	記載者(所属・職名)
年 月 日	

避難所活動の目的:

- ・公衆衛生的立場から避難所での住民の生活を把握し、予測される問題と当面の解決方法、今後の課題と対策を検討する。
- ・個人や家族が被災による健康レベルの低下をできるだけ防ぐための生活行動が取れるよう援助する。

		本日の状態			対応・特記事項		
配慮を要する人	高齢者	人	うち65歳以上	人			
			うち要介護認定者数	人			
	妊婦	人	うち妊婦健診受診困難者数	人			
	産婦	人					
	乳児	人					
	幼児・児童			うち身体障害児	人		
				うち知的障害児	人		
				うち発達障害児	人		
	障害者		人	うち身体障害者	人		
				うち知的障害者	人		
				うち精神障害者	人		
			うち発達障害者	人			
	難病患者		人				
	在宅酸素療養者		人				
	人工透析者		人				
	アレルギー疾患児・者		人				
服薬者数	服薬者	人	うち高血圧治療薬	人			
			うち糖尿病治療薬	人			
			うち向精神薬	人			
有症状者数	人数の把握		総数	うち乳児・幼児	うち妊婦	うち高齢者	
	感染症症状	下痢	人	人	人	人	
		嘔吐	人	人	人	人	
		発熱	人	人	人	人	
		咳	人	人	人	人	
	その他	便秘	人	人	人	人	
		食欲不振	人	人	人	人	
		頭痛	人	人	人	人	
		不眠	人	人	人	人	
		不安	人	人	人	人	
防疫的側面	食中毒様症状(下痢、嘔吐など)						
	風邪様症状(咳・発熱など)						
	感染症症状、その他						
まとめ	全体の健康状態						
	活動内容						
	アセスメント						
	課題/申し送り						

派遣元自治体 活動報告書(派遣元自治体から厚生労働省へ報告する様式)
(共通様式)

活動日	派遣元自治体名(都道府県名)	派遣元自治体名(市区町村名)
年 月 日		

派遣先(都道府県名)	派遣先(市区町村名)
活動場所(該当するもの一つに○)	
避難所	避難所名:
仮設住宅	地域名:
その他	

* 避難所毎、仮設住宅群毎に分けて報告して下さい。

派遣チーム人数		人
うち職種別人数	保健師	人
	事務職	人
	その他	人

支援活動

○実施した内容毎に実績を計上する。

○各項目には、下の項目一覧から番号を選択し、該当番号を記入する。

活動種別	対象	内容

<項目一覧>

	活動種別(どんなことを)	対象もしくは内容
個別支援	1 訪問 2 健康相談 3 保健指導 4 他職種・他機関への紹介・調整 5 個別支援計画作成 6 ケア会議への出席 7 その他(活動内容を記載すること)	【対象】 1 成人 2 妊婦 3 産婦 4 乳児 5 幼児 6 高齢者 7 知的障害者・児 8 身体障害者・児 9 精神障害者・児 10 発達障害者・児 11 難病患者 12 その他(対象者を記載すること)
集団支援	8 集団への健康教育 9 健康サロンの実施 10 その他(活動内容を記載すること)	【内容】 1 感染症対策 2 母子保健 3 精神保健(心の健康) 4 生活不活発病予防 5 エコノミークラス症候群予防 6 生活習慣病予防 7 閉じこもり予防 8 熱中症予防 9 その他(内容を記載すること)
その他	11 データ入力 12 帳票整理 13 健康サロンの実施準備 14 その他(活動内容を記載すること)	

仮設住宅入居世帯調査票

調査年月日 平成 年 月 日 調査者名 _____

1 世帯の状況

仮設住宅名				仮設住宅入居日	年 月 日	
TEL			FAX			被災状況 全壊(焼)・半壊(焼)
緊急連絡先	氏名	続柄	住所	TEL		
	氏 名	性別	続柄	生年月日	職業	健康状態(疾病、主訴)
家族構成・被調査者に○印	A					
	B					
	C					
	D					
	E					
	F					
経済状況	年金・給与・生保(福祉事務所・担当CW)					経済的に困っている・いない
震災の影響	家族状況変化 無・有()		仕事状況変化 無・有()		その他()	

2 近隣・社会との関係

交友関係	悩みを相談できる友人 有・無	仮設住宅での親しい友人 有・無
近所づきあい	全くない・あいさつする程度・会話をする程度・互いの家に行き来する・用事をたのむ	
来訪者	有 親族(娘・息子・兄弟姉妹・嫁)・ボランティア・ヘルパー・その他・無	
自治会等役割	前住所では役員をしていた・現在はしていないが今後やりたい・何もしていない	
活動参加意向	サークルやグループに参加している・今後地域活動やサークルに参加したい・参加意向なし	

3 要援護者(上記世帯調査において3歳未満、病弱者、65歳以上、独居者については全て記入)

英字	心身状況	受療状況等	社会資源活用状況

相談・要望等	総合所見 調査者の判断 A 要対応 B 対応不要
--------	-----------------------------

「」市 応急仮設住宅入居者健康調査票 (初回)

入居日 年 月 日 面接日 年 月 日 訪問者サイン

現住所 Tel 前住所 入居期間 家族状況: 母子 独居(若 老) 高齢者のみ

面接	氏名	年齢	職業	受診状況	健康状態	自覚症状	睡眠	飲酒	食生活	はりあい	世代	状況	判断	
				特になし	健康	なし	良い	飲まない	三食		乳幼	健康	認知	要 対 応 ・ 対 応 不 要
				通院中	良くも悪くもない	循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他)	地震前/後	時々	味噌汁	学童	妊婦	寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要	
				()	体調が悪い	消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	寝つきが悪い	惣菜・インスタント	成人	生活	精神	高 齢		
				入院・入所	再掲 咳・痰	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味の喪失・思考の抑制・他)	途中/早朝覚醒	毎日	外食	感染	身体			
				治療中断	(日前から)	筋骨格系(肩こり・腰痛・他)	熟睡感がない	朝 昼	夜サプリメント	難病	知的			
	男										その他()			
	女					その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	地震前/後				再掲	介護保険		
				特になし	健康	なし	良い	飲まない	三食		乳幼	健康	認知	要 対 応 ・ 対 応 不 要
				通院中	良くも悪くもない	循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他)	地震前/後	時々	味噌汁	学童	妊婦	寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要	
				()	体調が悪い	消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	寝つきが悪い	惣菜・インスタント	成人	生活	精神	高 齢		
				入院・入所	再掲 咳・痰	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味の喪失・思考の抑制・他)	途中/早朝覚醒	毎日	外食	感染	身体			
				治療中断	(日前から)	筋骨格系(肩こり・腰痛・他)	熟睡感がない	朝 昼	夜サプリメント	難病	知的			
	男										その他()			
	女					その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	地震前/後				再掲	介護保険		
				特になし	健康	なし	良い	飲まない	三食		乳幼	健康	認知	要 対 応 ・ 対 応 不 要
				通院中	良くも悪くもない	循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他)	地震前/後	時々	味噌汁	学童	妊婦	寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要	
				()	体調が悪い	消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	寝つきが悪い	惣菜・インスタント	成人	生活	精神	高 齢		
				入院・入所	再掲 咳・痰	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味の喪失・思考の抑制・他)	途中/早朝覚醒	毎日	外食	感染	身体			
				治療中断	(日前から)	筋骨格系(肩こり・腰痛・他)	熟睡感がない	朝 昼	夜サプリメント	難病	知的			
	男										その他()			
	女					その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	地震前/後				再掲	介護保険		
				特になし	健康	なし	良い	飲まない	三食		乳幼	健康	認知	要 対 応 ・ 対 応 不 要
				通院中	良くも悪くもない	循環器症状(めまい・動悸・胸痛・他)	地震前/後	時々	味噌汁	学童	妊婦	寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要	
				()	体調が悪い	消化器症状(下痢・便秘・胃腹痛・吐き気・他)	寝つきが悪い	惣菜・インスタント	成人	生活	精神	高 齢		
				入院・入所	再掲 咳・痰	精神症状(ゆううつ・焦燥感・意欲の低下・興味の喪失・思考の抑制・他)	途中/早朝覚醒	毎日	外食	感染	身体			
				治療中断	(日前から)	筋骨格系(肩こり・腰痛・他)	熟睡感がない	朝 昼	夜サプリメント	難病	知的			
	男										その他()			
	女					その他(食欲の低下・疲れやすい・他)	地震前/後				再掲	介護保険		
ペット	犬 猫 その他	緊急時連絡先: <input type="text"/>				Tel <input type="text"/> (本人との関係)			備考					
		再建の予定 1. 現在の自宅 2. 移転(場所を変えて自宅) 3. 公営住宅 4. 民間アパート 5. 未定							再建困難要因					

「 」市 応急仮設住宅入居者健康調査票(継続)

現住所 TEL 入居日 年 月 日 記入日 年 月 日 AM・PM・夜

前住所 家族状況 : 母子 独居(老・若) 高齢者のみ

面接	氏名	性別	続柄	職業	受診状況	健康状態	震災後の心身の変化		飲酒	交流	食生活等	身体状況	判断
					特になし 通院中 () 入院・入所 治療中断	健康 良くも悪くもない 体調が悪い 咳・痰	なし イライラ 眼りが浅い 考えがまとまらない 何もする気が起きない 涙もろくなった 心臓がどきどきする	食欲がない 血圧が高くなった 風邪をひきやすい 腰痛 耳鳴り アルコールの量が増えた 他()	飲まない 時々 毎日 朝 昼 夜 量	今までどおり 疎遠になった	欠食 買い物 調理 ゴミだし 他()	介護保険 精神障害 知的障害 身体障害 認知症 寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要
	生年月日		MTSH										
					特になし 通院中 () 入院・入所 治療中断	健康 良くも悪くもない 体調が悪い 咳・痰	なし イライラ 眼りが浅い 考えがまとまらない 何もする気が起きない 涙もろくなった 心臓がどきどきする	食欲がない 血圧が高くなった 風邪をひきやすい 腰痛 耳鳴り アルコールの量が増えた 他()	飲まない 時々 毎日 朝 昼 夜 量	今までどおり 疎遠になった	欠食 買い物 調理 ゴミだし 他()	介護保険 精神障害 知的障害 身体障害 認知症 寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要
	生年月日		MTSH										
					特になし 通院中 () 入院・入所 治療中断	健康 良くも悪くもない 体調が悪い 咳・痰	なし イライラ 眼りが浅い 考えがまとまらない 何もする気が起きない 涙もろくなった 心臓がどきどきする	食欲がない 血圧が高くなった 風邪をひきやすい 腰痛 耳鳴り アルコールの量が増えた 他()	飲まない 時々 毎日 朝 昼 夜 量	今までどおり 疎遠になった	欠食 買い物 調理 ゴミだし 他()	介護保険 精神障害 知的障害 身体障害 認知症 寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要
	生年月日		MTSH										
					特になし 通院中 () 入院・入所 治療中断	健康 良くも悪くもない 体調が悪い 咳・痰	なし イライラ 眼りが浅い 考えがまとまらない 何もする気が起きない 涙もろくなった 心臓がどきどきする	食欲がない 血圧が高くなった 風邪をひきやすい 腰痛 耳鳴り アルコールの量が増えた 他()	飲まない 時々 毎日 朝 昼 夜 量	今までどおり 疎遠になった	欠食 買い物 調理 ゴミだし 他()	介護保険 精神障害 知的障害 身体障害 痴呆 寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要
	生年月日		MTSH										
					特になし 通院中 () 入院・入所 治療中断	健康 良くも悪くもない 体調が悪い 咳・痰	なし イライラ 眼りが浅い 考えがまとまらない 何もする気が起きない 涙もろくなった 心臓がどきどきする	食欲がない 血圧が高くなった 風邪をひきやすい 腰痛 耳鳴り アルコールの量が増えた 他()	飲まない 時々 毎日 朝 昼 夜 量	今までどおり 疎遠になった	欠食 買い物 調理 ゴミだし 他()	介護保険 精神障害 知的障害 身体障害 認知症 寝たきり	要 対 応 ・ 対 応 不 要
	生年月日		MTSH										
ペット	犬 猫		他		緊急時連絡先:	(TEL -) (本人との関係)	今後必要な対応						

仮設住宅保健師活動報告

- ① 仮設住宅地の状況把握
 ② 現状を評価し、次の活動につなげる

記入年月日:

記入者:

仮設住宅地名:	入居者情報			
管理者氏名:	入居戸数	世帯	人/全戸数	世帯
	○単身世帯 (世帯)		うち高齢者(世帯)	
	○高齢者(65歳以上)のみの世帯		(世帯)	
	○障害児・者のいる世帯		(世帯)	
	○要介護者のいる世帯		(世帯)	
	○妊産婦・乳幼児のいる世帯		(世帯)	
連絡先:				
●交流施設	なし・あり(箇所)		
●サロンの開催 (頻度	なし・あり 対象)		
●健康相談の開催	なし・あり()		
●健康教育の開催	なし・あり()		
●支援	なし・あり()		
●医療提供	なし・あり()		

主な支援内容	
参加状況	
関係者・機関との 連絡	
次回への引継ぎ	

避難所・在宅健康調査連名簿(用途:全員把握、乳幼児、高齢者、その他)

様式 11

・避難所等において、全体の健康調査を行う際に使用できる。継続支援が必要な場合は○印を付し、健康相談票を作成する。
 ・乳幼児・高齢者・介護認定者、慢性疾患患者など、特定の対象者を把握する場合にも使用できる。

連番	市・町・村	氏名	年齢 (生年月日)	場所(避難所・仮設住宅名)			把握年月日			担当者(所属)			
				性別	対象(状態・疾患など)			家族・介護者の状況	保健師の前 関与は○	相談内容・問題点	援助内容	要継続 は○	備考(住所など)
					乳幼児	高齢者	その他 *						
1				男・女									
2				男・女									
3				男・女									
4				男・女									
5				男・女									
6				男・女									
7				男・女									
8				男・女									
9				男・女									
10				男・女									
11				男・女									
12				男・女									
13				男・女									
14				男・女									
15				男・女									

* その他には具体的な対象者を記載する。妊産婦、介護認定者、精神保健、難病、慢性疾患、心身障害など

保健活動日誌（個人記録）

様式 10

活動 年 月 日	曜 日	所属 氏名	
		主 な 活 動 午 前	午 後
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			
平成 年 月 日			

*活動した場所、活動内容、対象などを1週間単位で記載する。

応援・派遣時保健活動引き継ぎ書

班（ 班）従事者人数（ ）記入者氏名（ ）

担当地域名		担当地域：世帯数（ ） 人口（ ）	
		活動期間 年 月 日（ ）～ 年 月 日（ ）計 日間	
地域 の 状 況	生活 環 境	ライフライン	電話（ ）・電気（ ）・ガス（ ）・水道（ ）
		道路・交通状況	
		避難所の状況	合計 ヶ所
			場所： , 約 人(状況)
			場所： , 約 人(状況)
		場所： , 約 人(状況)	
		物資配布状況	
	住民連絡窓口		
	生活 状 況	トイレ・入浴	
		その他	
生活状況			
主な健康課題			
活動内容			
活動上の問題点及び課題			
現地からの指示事項			
物品に関すること		その他特記事項	
備考			

* 応援・派遣時の地域の状況及び活動内容を記載する。

**VIII 健康教育媒体
及び
参考資料**

Ⅷ 健康教育媒体及び参考資料

1 健康教育媒体

発災直後から中長期にいたる災害時の保健活動において、避難所等での健康教育に活用できる媒体があると有用である。災害時の電源が途絶えた状況でも困らないように印刷しておいたり、日頃の地域保健活動で活用している媒体（リーフレット）の活用など、平常時に準備しておく。

災害発生後の予測される健康問題と健康教育媒体の例

予測される健康問題	健康教育媒体の例
①震災によるケガ等	①「震災によるケガや病気について ～応急手当をしたらずぐに受診しましょう～」
②エコノミークラス症候群	②「エコノミークラス症候群を予防しましょう」
③水分摂取不足	③「避難所生活での健康管理について」
④避難所生活等における不活 発な生活による機能低下	④「不活発な生活による機能低下を予防しましょう」 ストレッチングを行いましょ！ 「腰痛の予防をしましょ！」 ③も参照。
⑤不眠・ストレスの増加	⑤「よく眠れない・・・お困りの方はみえませんか？」
⑥感染症の発生・まん延	⑥「かぜに注意しましょ！」 「トイレの後と食事の前は手を消毒しましょ！」 「効果的なうがいしましょ！」 「下痢や腹痛がおこったら」
⑦インフルエンザの発生	⑦「インフルエンザに注意しましょ！」
⑧食中毒の発生	⑧「食中毒を予防しましょ！」 「ノロウイルスによる食中毒、感染に注意しましょ！」
⑨家屋の片付けによる外傷	⑨「家の片付けに伴うケガに注意しましょ！」
⑩PTSD等の出現	⑩「災害のあとの気持ちの変化」 「災害のあとの気持ちの変化～子どもの変化」
⑪熱中症の発症	⑪「熱中症を予防しましょ！」

* 健康教育媒体の例については、愛知県災害時保健師活動マニュアル（改訂版）「健康教育媒体集」として別途配布。

2 参考資料

(1) 平常時の体制整備のチェックリスト

災害発生時の保健活動を迅速かつ適確に展開するには、平常時からの保健活動体制の整備と訓練を充実することが重要である。

平常時からの県（医療福祉計画課）、保健所、市町村の体制整備について概要を示す。整備状況、整備内容を平常時に確認し、課題の早期解決と改善を推進していく。

平常時の県（医療福祉計画課）の体制整備のチェックリスト

項 目			確認	
県（医療福祉計画課）	組織・命令系統の確認と、関係機関との連携・役割の明確化	1	防災局、部内関係各課との連携による役割確認と共通理解を図る	
		2	課内の役割分担及び従事内容の明確化、代行者についての取り決め	
		3	応援・派遣保健師の体制（応援・派遣者リスト作成等）と条件の整備	
		4	保健所との連絡網の整備及び連絡体制の確立	
	情報伝達体制の整備	5	職員、関係機関との情報伝達方法の確保と定期的更新	
		6	保健活動に必要な情報把握及び報告様式の整備（保健師の稼働状況・応援要請・保健活動に関すること等）	
	支援団体の把握と役割の確認	7	ボランティアの受け入れ状況と役割の確認	
		8	県内外のボランティアの受入れ窓口の把握と必要時活用できる体制の整備	
	保健活動に必要な情報・物品の整備	9	保健所への必要物品の整備	
		10	応援・派遣に必要な情報・物品の整備と更新	
	災害時要援護者の所在把握と安否確認、避難誘導体制の整備	11	災害時要援護者の安否確認について、優先度の判断基準を作成	
	関係機関、職員への啓発・研修	12	災害時保健師活動マニュアル（改訂版）の普及啓発と各自治体の取り組みを促進	
		13	研修の実施	
		14	情報伝達訓練の実施	
	地域住民などへの教育	15	防災啓発指導用媒体等の整備	
		16	災害に関する研修会講師リスト作成	

平常時の保健所の体制整備のチェックリスト

項 目		確認	
保 健 所	組織・命令系統の確認と、関係機関との連携・役割の明確化	1 保健所内での連携体制の整備	
		2 災害時保健師活動マニュアルの常備と動ける体制づくり	
		3 課内での役割分担と従事内容の明確化、統括保健師及び代行者についての取り決め	
		4 管内の保健・医療・福祉・介護関係機関との連携体制整備	
		5 市町村との連絡体制と役割の明確化	
		6 管内市町村の地域防災計画の把握	
	情報伝達体制の整備	7 職員、関係機関との情報伝達方法の確保と定期的更新	
		8 保健活動に必要な情報把握及び報告様式の整備	
	支援団体の把握と役割の確認	9 保健所と関わりのあるボランティア団体の把握と役割確認	
		10 災害時の協働できるソーシャルキャピタルの創造と醸成	
	保健活動に必要な情報・物品の整備	11 必要物品の整備と更新	
		12 関係機関のリスト作成と定期的な更新	
		13 市町村と関係機関等のリストの定期的な情報交換	
		14 保健活動に必要な情報・物品の一括保管と保管場所の周知	
	災害時要援護者の所在把握と安否確認、避難誘導體制の整備	15 必要時、保健所と市町村が患者の情報を共有できる体制を整備	
		16 保健所が把握している災害時要援護者を支援する機関との迅速な連携・連絡体制づくり	
		17 プライバシーに配慮した個人情報の開示方法・範囲の確認	
		18 結核・難病患者、在宅酸素療法患者、精神障害者など緊急対応が必要とされる地区別対象者別リストの作成、地図上でのマッピング	
	関係機関、職員への啓発・研修	19 地域関係機関・関係者を集めた災害対策検討会議の開催	
		20 職員研修(図上演習等の実施)	
		21 市町村職員へ災害時対応に関する研修の実施	
		22 不測の事態に対応でき、臨機応変に動ける研修の実施	
		23 災害時保健師活動マニュアル(改訂版)の普及	
		24 市町村におけるマニュアル作成への支援	
	地域住民などへの教育	25 災害時要援護者への教育	
		26 一般住民への教育	
		27 ボランティアへの教育	

平常時の市町村の体制整備のチェックリスト

項 目		確認	
市 町 村	組織・命令系統 の確認と、関係機 関との連携・役割 の明確化	1 市町村内での連携体制の整備	
		2 保健活動マニュアルの常備と動ける体制づくり	
		3 担当内での役割分担と従事内容の明確化、統括保健師及び 代行者についての取り決め	
		4 保健・医療・福祉、介護関係機関、地域住民を含めた関係機 関と連絡体制及び役割の明確化、防災会議の開催	
		5 保健所との連絡体制と役割の明確化	
	情報伝達体制の 整備	6 職員、関係機関との情報伝達方法の確保と定期的更新	
		7 住民への情報伝達方法の確認と活用	
		8 保健活動に必要な情報把握及び報告様式の整備	
	支援団体の把握 と役割の確認	9 市町村ボランティア受け入れ窓口との連携体制の整備	
		10 保健従事者ボランティアの対応体制の検討	
		11 民生・児童委員、ボランティア団体との連携	
		12 支援が得られる団体の把握	
		13 災害時の協働できるソーシャルキャピタルの創造と醸成	
	保健活動に必要な 情報・物品の 整備	14 必要物品の整備と更新（携帯品はP59～61参照）	
		15 関係機関のリスト作成と定期的な更新	
		16 保健所と関係機関等のリストの定期的な情報交換	
		17 保健活動に必要な情報・物品の一括保管と保管場所の周知	
	災害時要援護者 の所在把握と安 否確認、避難誘 導体制の整備	18 保健、福祉、介護部門との安否確認対象者の明確化	
		19 居宅介護支援事業者との迅速な情報入手体制の確立	
		20 プライバシーに配慮した個人情報開示方法・範囲の確認	
		21 高齢者、身体・知的障害児者、精神障害者、乳幼児、外国人 など緊急対応が必要とされる地区別対象者別リストの作成、 地図上でのマッピング	
		22 視覚、聴覚障害者等の情報獲得体制の整備	
		23 民生・児童委員、町内会役員等と安否確認の体制を整備	
	関係機関、職員 への啓発・研修	24 地域関係機関、住民代表（自治会、民生・児童委員、保健推 進員など）を構成員にし、災害対策検討会議等を開催	
		25 職員研修（図上演習等の実施）	
		26 不測の事態に対応でき、臨機応変に動ける研修の実施	
	地域住民などへ の教育	27 災害時要援護者への教育	
		28 一般住民への教育	
		29 ボランティアへの教育	

こころの健康チェック表 K6/K10調査票

記入日： 年 月 日

氏名	男・女	生年月日	年	月	日(歳)
住所					
電話番号					

過去 30 日間の間にどれくらいの頻度で、次のことがありましたか？

あてはまるところに○をつけてください。

	0 点	1 点	2 点	3 点	4 点
1 理由もなく疲れきったように感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
2 神経過敏に感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
3 どうしても落ち着けなくらいに、神経過敏に感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
4 絶望的だと感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
5 そわそわ、落ち着かなく感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
6 じっと座ってられないほど、落ち着かなく感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
7 ゆううつに感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
8 気分が沈み込んで、何が起こっても気が晴れないように感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
9 何をするのも骨折りだと感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も
10 自分は価値のない人間だと感じましたか	全く ない	少し だけ	とき どき	たい てい	いつ も

K6/K10日本語版について (スタッフ用)

K6およびK10と呼ばれる尺度は、米国のKesslerらが開発した自記式スクリーニング尺度です（被災者本人に記入してもらうということです）。従来の標準であるGHQ（General Health Questionnaire）よりも鋭敏であるという結果が得られています。また、GHQに比べて質問数が少なく、簡便に行うことができます。日本語版は、古川らが作成しています。

K6/K10がスクリーニングできるのは、抑うつ性障害（大うつ病、気分変調症）及び不安障害（パニック障害、広場恐怖、社会恐怖、全般性不安障害、PTSD）です。

カットオフポイント（精神疾患である確率が50%以上である）は、

K6	15点以上	
K10	25点以上	です。

しかし、あくまでもこれは、スクリーニングに使用すべきものです（精神疾患の疑いがある方を拾い出す）。カットオフポイント以上だから精神疾患だと断定するのではなく、精神医療へつなげる努力が必要です。

また逆に、カットオフポイント以下だから大丈夫と、鵜呑みにすることもいけません。いろいろな情報をもとに、その人に必要な支援を考えるべきです。

自記式の尺度は、記入者本人が、「この選択肢を選んだら、自分が精神障害扱いされてしまうから、軽めに書いておこう」ということができなくもありません。その限界を知ったうえで用いましょう。

<使い方>

K6は1～6、K10は1～10の項目に記入。

全くない（0点）、少しだけ（1点）、ときどき（2点）、たいてい（3点）、いつも（4点）とし、合計点を出す。高得点ほど、上記精神疾患の可能性が高い。

スクリーニング質問票(SQD)

実施日： 年 月 日

氏名： 年齢： 歳 (男・女)

住所：

【質問】災害後は、生活の変化が大きく、いろいろな負担(ストレス)を感じるものが長く続くものです。最近2週間に今からお聞きするようなことはありませんでしたか。

1 食欲はどうですか。普段と比べて減ったり、増えたりしていますか。	はい いいえ
2 いつも疲れやすく、身体がだるいですか。	はい いいえ
3 睡眠はどうですか。寝つけなかったり、途中で目が覚めることが多いですか。	はい いいえ
4 災害に関する不快な夢を見ることがありますか。	はい いいえ
5 うつで気分が沈みがちですか。	はい いいえ
6 イライラしたり、怒りっぽくなっていますか。	はい いいえ
7 ささいな刺激に過敏に反応してしまうことがありますか。	はい いいえ
8 災害を思い出させるような場所や人、話題などを避けてしまうことがありますか。	はい いいえ
9 思い出したくないのに災害のことを思い出しますか。	はい いいえ
10 以前は楽しんでいたことが楽しめなくなっていますか。	はい いいえ
11 何かのきっかけで、災害を思い出して気持ちが動揺することはありますか。	はい いいえ
12 災害についてはもう考えないようにしたり、忘れようと努力していますか。	はい いいえ

スクリーニング質問票(SQD)について (スタッフ用)

被災した住民を対象とした訪問や検診の時に、精神的問題がないかスクリーニングするためのものです。

いきなり質問をするのではなく、あいさつを交わし、来意を告げ、世間話をするなど自然な流れの中で、使用すべきものです。

災害後に発生する精神的問題は多岐にわたりますが、この質問項目では、「うつ状態」と「PTSD(外傷後ストレス障害)症状」に焦点を当てて、そのハイリスク者を見分けられるような内容にしてあります。

判定基準が示されていますが、診断を意味するのではなく、ハイリスク者を見分けるための基準です。この基準を満たす場合は、かなりリスクが高く、継続した関与、あるいは専門スタッフへの紹介が必要であることを示します。しかし、質問にきちんと答えていなかったり、抵抗や否認が強い場合などは、必ずしも基準に満たない場合があります。答えるときの態度や会話の内容などから、問題を感じたときは、専門スタッフと検討すべきでしょう。

項目数は多く感じるかもしれませんが、実際に施行してみると10分以内で終わることができます。なお、質問の内容はわかりやすい言葉づかいにしてありますが、相手の理解しやすいように、言い回しを変えても問題ありません。

【判定基準】

PTSD	3、4、6、7、8、9、10、11、12のうち、5個以上が存在し、その中に、4、9、11のどれか一つは必ず含まれている。
うつ状態	1、2、3、5、6、10のうち4個以上が存在し、その中に5、10のどちらか一方が必ず含まれる。

【備考】

PTSDの三大症状及びうつ症状に対応するのは、それぞれ次の項目である。

再体験症状	4、9、11
回避症状	8、10、12
過覚醒症状：	3、6、7
うつ症状	1、2、3、5、6、10

参考・引用文献一覧

- 1 井伊久美子：災害時の保健婦活動，公衆衛生，60(4)，272-275，1996.
- 2 高鳥毛敏雄：災害時の公衆衛生と保健婦，保健婦雑誌，52(8)，600-605，1996.
- 3 三輪眞知子：静岡県の「災害時における保健指導マニュアル」作成に生かしたこと，保健婦雑誌，52(8)，606-613，1996.
- 4 宮本保子：被災地ではいま 震災の教訓から学ぶ保健婦活動，保健婦雑誌，52(8)，625-632，1996.
- 5 井伊久美子：避難所における救援活動と保健婦の役割（地域看護学講座別巻 地域看護管理），152-162，医学書院，東京，1997.
- 6 厚生省健康政策局計画課・厚生省健康政策局指導課：災害時の地域保健医療活動，新企画出版社，1997.
- 7 災害時の地域保健福祉活動ガイドライン，兵庫県，2000.
- 8 厚生労働省精神・神経疾患研究委託外傷ストレス関連障害の病態と治療ガイドラインに関する研究班：心的トラウマの理解とケア，じほう，2001.
- 9 平成13年度日本看護協会先駆的保健活動交流推進事業，有珠山噴火災害における保健活動から保健所保健師のあり方の検討，北海道室蘭保健所，2001.
- 10 平成13年度地域保健総合推進事業，健康危機管理のための保健所機能に関する調査報告書，日本公衆衛生協会，2002.
- 11 平成13年度地域保健総合推進事業，健康危機管理のための保健所機能に関する調査報告書，日本公衆衛生協会，2002.
- 12 災害時における難病患者支援マニュアル，静岡県中部健康福祉センター・静岡県中部保健所，2003.
- 13 災害弱者支援ガイドライン，静岡県健康福祉部，2003.
- 14 豊田市災害弱者地震防災マニュアル，豊田市，2003.
- 15 平成13年度厚生科学特別研究事業，災害時地域精神保健医療活動ガイドライン，国立精神・神経センター精神保健研究所成人精神保健部，2003.
- 16 新潟県中越地震にかかる派遣保健師活動記録集，愛知県医療福祉計画課，2005.
- 17 大規模災害における保健師の活動マニュアル，全国保健師長会，2006.
- 18 新潟県中越沖地震派遣保健師活動報告書，愛知県健康福祉部，2007.
- 19 市町村災害要援護者支援体制マニュアル，愛知県地域福祉課，2009.
- 20 豊田市災害派遣時健康支援活動マニュアル，豊田市，2012.
- 21 岐阜県災害時保健活動マニュアル，岐阜県，2012.
- 22 災害時口腔ケア支援活動ハンドブック，愛知県健康対策課，2012.
- 23 静岡県災害時健康支援マニュアル(平成25年3月改訂版)静岡県健康福祉部，2013.
- 24 東日本大震災 派遣保健師活動記録，愛知県医療福祉計画課，2013.
- 25 災害時心のケア活動の手引き，愛知県障害福祉課こころの健康推進室，2013.
- 26 平成24年度地域保健総合推進事業，被災地への保健師の派遣の在り方に関する検討会報告書，日本公衆衛生協会，2013.
- 27 東日本大震災における保健師活動の実態とその課題報告書，日本公衆衛生協会，2013.
- 28 大規模災害における保健師の活動マニュアル，日本公衆衛生協会・全国保健師長会，2013.

愛知県災害時保健活動マニュアル検討委員会設置要綱

(目的)

第一条 地震などの災害時において、保健師として迅速・適正・効果的に地域での保健活動を行うことができるように、保健活動マニュアルを改正するため、災害時保健活動マニュアル検討委員会（以下「検討委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第二条 検討委員会は、次に掲げる事項を協議する。

- (1) 災害時保健活動マニュアルの内容に関すること
- (2) 災害時の保健活動に関すること
- (3) その他、災害に関すること

(組織)

第三条 検討委員会は、別表1に掲げる者をもって構成する。

- 2 検討委員会の下部組織として作業部会を置き、別表2に掲げる者をもって構成する。
- 3 作業部会は、必要に応じて構成員以外の者の出席を求めて、その意見を聞くことができる。

(会議)

第四条 会議は、愛知県健康福祉部健康担当局長が招集する。

(事務局)

第五条 会議の事務局を愛知県健康福祉部医療福祉計画課に置く。

(解散)

第六条 検討委員会は、第一条の目的を達した時に解散する。

(雑則)

第七条 この要綱に定めるもののほか、会議の運営に関し必要な事項は、愛知県健康福祉部健康担当局長が定める。

付則

この要綱は、平成24年6月30日から施行する。

愛知県災害時保健活動マニュアル検討委員会構成員名簿

別表1 検討委員会構成員

区分	所属	職名	氏名
学識経験者	名古屋市立大学看護学部	准教授	門間 晶子
民間団体	特定非営利活動法人レスキューストックヤード	常任理事	浦野 愛
中核市	豊田市福祉保健部総務課	副主幹	柴川 ゆかり
市町村	岩倉市市民部健康課	主 幹	原 咲子
	田原市健康福祉部健康課	副主幹	藤井 信代
保健所	春日井保健所総務企画課	主 査	伊藤 博美
職能団体	愛知県保健所長会	代 表	松本 一年
	愛知県保健所次長会	代 表	犬塚 由幸
	愛知県健康支援課長会	代 表	榊原 るり子
県関係者	愛知県防災局災害対策課	主任主査	岡田 晴道
	愛知県健康福祉部地域福祉課	主 査	北原 健吾
	愛知県健康福祉部こころの健康推進室	主任主査	船崎 初美
	愛知県健康福祉部健康担当局健康対策課	主任主査	小椋 智子
	愛知県健康福祉部健康担当局健康対策課	主 任	櫻井 元晴

(順不同)

別表2 検討委員会作業部会構成員

区分	所属	職名	氏名
学識経験者	名古屋市立大学看護学部	准教授	門間 晶子
中核市	豊田市福祉保健部総務課	副主幹	柴川 ゆかり
市町村	岩倉市市民部健康課	主 幹	原 咲子
	田原市健康福祉部健康課	副主幹	藤井 信代
保健所	春日井保健所総務企画課	主 査	伊藤 博美
職能団体	愛知県健康支援課長会	代 表	榊原 るり子
県関係者	愛知県防災局防災危機管理課	主 査	黒原 弘治
	愛知県防災局災害対策課	主任主査	岡田 晴道
	愛知県健康福祉部医務国保課	主 査	辻田 朋大

(順不同)

愛知県災害時保健師活動マニュアル
(改訂版)

発行年月：平成25年 12月

発行：愛知県健康福祉部医療福祉計画課

〒460-8501

愛知県名古屋市中区三の丸三丁目1番2号

電話 052-954-6267 (ダイヤルイン)